

令和4年度学校評価中間報告書

学校名（廿日市市立宮園小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策	
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 (%)	最終	達成 (%)	評価	結果と課題の分析			
確かな学力	○基礎・基本の 定着・活用 ◎主体的に課 題解決に取り 組む力の育成	・特性や進度等 に応じた学習 (自由進度学習) ・知識を活用・ 発揮する協働 的な学びの実 践 ・興味関心に応 じた課題に取り 組む機会の 設定(個人探究 学習・自主学習 等)	・自ら進んで学習 に取り組む児童の 割合(アンケート)	90% (93%)	93.2		103	A	・これまでに取り組んできた自由進度学習の成果が出ている。今後も充実させていく。 ・2学期から高学年を中心に個人探究学習に取り組んでいる。児童は、主体的に課題解決に取り組めており、学びの楽しさを味わうことができている。 ・授業での学びを家庭学習につなげ、内容の質的な向上を図りながら思考力・判断力・表現力を高めていきたい。	・自由進度学習の研究の 実践を期待している。 ・以前からチャレンジ コンテストはおもしろくて 素晴らしい。今後も子ども たちの自由な発想を大 いに評価してほしい。 ・チャレンジコンテスト をはじめ、日頃からの取 組の成果が出ている。す べて評価がAというのは 素晴らしい。	・自由進度学習や個人 探究学習の成果 をつなぎ、来年度に 向けてカリキュラ ムをどうデザイン していくか、どんな 力を児童に身に付 けさせていくのか ということを見つ め直していく。 ・特性や進度等に応 じた学習内容及び 授業づくりを日頃 の授業でも取り入 れ、家庭学習ともつ なげながら、個に応 じた指導・支援を行 っていく。	
			・廿日市市学力定 着状況調査におけ る思考判断表現の 目標値を達成する 児童の割合	68% (67%)	-							
			・課題の解決に向 けて、自分で考え 自分から取り組む 児童の割合(全国学 力・学習状況調査児 童質問紙【市共通項 目】 ・設定した期間に おける児童の家庭 学習の目標時間の 達成率《小中共同項 目》	85% (85.4 %)	85.7	100	A	100				A
豊かな心	○規範意識・相 手意識の醸成 ◎自己有用感 の向上・他者理 解の促進	・相手や場に応 じた挨拶・言葉 遣いの指導の 徹底 ・多様な他者と 協働する活動 の場づくり(い いところ見 つけ・縦割り班掃 除等)	・相手や場に応じ た言葉遣いので きる児童の割合(ア ンケート)	80% (79%)	96.0		120	A	・あいさつについての肯定的 評価は児童 89.7%、保護 者は 75.6%と数値が乖離し ている。いつでも、どこで も自分から進んであいさ つできるよう、あいさつ運 動やあいさつボランティ アなどを取り入れていく。 ・新型コロナウイルスの感 染状況を見つつ、異学年交 流の場を意図的に設定し、 児童のよさや頑張りを通 信やHP など様々な方法で 価値づけながら自己肯定 感を伸ばしていく。	・「あいさつは大人になれ ばできるようになる」と か「したくない時はしな くてもいい」と考えてい る大人が少なくないよう に捉えている。言葉遣い も挨拶も人間力の能力の 一分野と考えての指導が 必要である。	・あいさつについて は、運営委員の企画 で「あいさつボラン ティア隊」ができ た。継続するしかけ を仕組みながら、児 童の自主性や自己 肯定感を伸ばして いく。	
			・「自分から進んで あいさつできる」 児童の割合《小中 共同項目》(アンケート)	90% (93%)	89.7	99.9	B					
			・自分には、良い ところがあると答 える割合(アンケート)	90% (91%)	86.9	96.5	B					
			・「困っている友達 がいたら声をかけ たいと思う」と答 える児童の割合(ア ンケート)	90% (96%)	96.6	107	A					

健やかな体	○生活・健康に関する自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりの推進 (外遊び・学級レク等) ・新型コロナ対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きという児童の割合 (アンケート) ・体温チェックカードを提出する児童の割合 	85% (85%) 100% (-)	84.0 98.0		98.8 98.0	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びについては学級によって差が出ている。今後も学級レクや全員遊びなどを計画的に行っていく。 ・体温チェックカードの提出については、学校だよりやメール等で家庭への啓発を意図的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも、体を動かすことを意図的に仕組むことに努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会が定期的に全校で行う外遊びを計画し、実施している。コロナの状況を見据えながら、取り組んでいく。 ・体育の授業づくりのアイデアを実践レポート等で共有していくことで、体育の授業改善を図り、体を動かすことの楽しさを味わわせていく。
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○服務規律の確保 ○働き改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の規範意識の更なる確立 ・相談体制の充実 ・会議、研修、行事の精選 ・教職員のワークバランスの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の服務研修を確実に実施し、未然防止に努める。(年間12回) ・「宮園小には相談しやすい雰囲気があると思う」と答える教職員の割合 (アンケート) ・時間外在校時間月平均45時間を超える教員 ・子どもと向き合う時間が確保されていると考える教職員の割合 (アンケート) 	12回 (12回) 100% 0% (-) 90% (91%)	7回 92.3 35.0 5人 92.3		100 92.3 35.0 102	A B D A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、教職員は児童に向き合いながら学習指導や生徒指導を行っている。今後も働きやすい職場づくりに努めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもと向き合う時間」は特別に設けられるものではなく、その最大かつ最良の時間は毎日の授業時間だということを基本にしてほしい。 ・仕事のオン・オフが言われる時代ですが、「教職に就いている」ということは、24時間、365日片時もその職にある事実が消すことができない(オフにならない)ということを念頭に置いて職務に当たってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は、日々、教材研究に励み、授業改善に向けた努力を積み重ねている。下半期に入り、管理職が時間外勤務時間を減らそうとする姿をこれまで以上に積極的に見せることで、定時退行日を意識したり、その日の仕事を切り上げたりする姿が見えてきた。分掌についても見直しをし、協働して業務を遂行できるようにしていく。